

第45回理事会 議事録

1 開催場所

札幌市中央区北5条西6丁目 札幌センタービル5階 C2会議室

2 開催日時

2024年2月7日（水） 10時00分から11時00分まで

3 理事総数 9名

4 出欠等の状況

理事(出席)	8名	阿部 啓二、小貫 秀治、佐藤 季規、鈴木 英一 谷 一之、田村 亨、水野 治、山崎 弘善
理事(欠席)	1名	林 美香子
監事(出席)	2名	末永 仁宏、山本 眞樹夫
議事録作成者		谷 一之(専務理事)

5 定足数の報告

定刻に至り、阿部理事長が挨拶の後、理事9名のうち過半数が出席しているため、定款第41条の規定により本理事会が成立している旨を告げた。

6 議案の審議状況及び議決の結果等

次に、阿部理事長から定款44条第2項の規定により、議事録署名人を理事長、末永監事、山本監事とする旨を告げて議事に入った。

報告事項1「2023年度事業実施状況（中間報告）について」、報告事項2「2023年度決算見込みについて」及び報告事項3「代表理事の業務執行報告について」の件

小倉部長から、資料1に基づき2023年度の実施状況について、「代表理事の業務執行報告」を兼ねて説明し、引き続き中尾事務局長から、資料2に基づき2023年度決算見込みについて説明があった。

第1号議案「はまなす財団の再構築に向けた3年間のアクションプラン（案）について」の件

中尾事務局長から、資料3に基づき説明を行った。

本件に関して議長から質問、意見などの発言を求めたところ、次のとおり発言があり、専務理事から説明があった。

【山本監事】

アクションプランの基本方針に示された食と観光のテーマはその通りと考えるが、内容は国内向けを意識している印象が強い。これからは、国際的な視野が必要であり、そのような観点を加えてはどうかとの感想。例えば、食を国際的に展開するためには、HACCPやISO22000、GAPの取得などが必須になってくるが、そうした人材が北海道には不足しているといった課題もある。

【中尾事務局長】

インバウンドも増えており、道も道産食品の輸出について積極的に取り組みを進めている。アクションプランの展開においては、こうしたことにも積極的に挑戦をしていかなければならないと考えており、しっかり取り組んでいきたい。

【谷専務理事】

最近、地域おこし協力隊は、海外を経験した若者も多いので、そういった方の力を積極的に引き出していきたいと考えている。

【小貫理事】

アクションプランで示した今後の方向性の中に、脱炭素という言葉も入っており、非常に重要な要素であるが、具体的にはどのようなことをイメージしているか教えてほしい。

【中尾事務局長】

食と観光と並んで脱炭素は北海道を支える重要な要素。これまでの事業実績が余りなかったことから少し控えめな書き方としているが、脱炭素というのは様々な事業の中で関連していくべきもの。環境系の財団法人との連携も行っている。

【谷専務理事】

環境と社会と経済といったキーワードを見据えながら進めていきたい。

【田村理事】

はまなす財団も転換期だが、日本や世界的も大きな転換期を迎えている。3年間のアクションプランの中でPDCAをやりながらという手法は適切ではあるが、予想以上にスピードは早い。状況に合わせて流動的、弾力的に事業を進められるよう念頭においてほしい。また、官と民との連携の中で、人への投資ということにアンテナを張って進めていくとよい。

【谷専務理事】

多様な社会に対応できるよう。常にアンテナを張って、外部のアドバイスも頂きながら適切に取組を進めていきたい。

その後、出席理事全員一致で承認した。

7 その他

会議次第4「その他」に入り、議長から役員及び事務局に発言等を求め、中尾事務局長から、次回理事会の予定と、アクションプランの内容を前広に地域に広報活動を行う旨を説明し、その後特に発言はなく、議長が「以上をもって本日の議事は、全て終了した」と宣言し、11時00分に理事会を閉会し、解散した。

上記の議決等を明確にするため、定款第44条第2項の規定に基づき、出席した理事長及び監事は、本議事録に記名押印する。

2024年3月8日

公益財団法人 はまなす財団 第45回理事会

理 事 長 阿 部 啓 二 印

監 事 末 永 仁 宏 印

監 事 山 本 眞 樹 夫 印